

## いなむら稲 村:の「い~なこの街 尼崎」 8月

テーマ：尼崎市・鞍山市友好都市提携 30 周年記念「子供達の国際交流」

稲 村：尼崎稲 村：の稲村です。月に1度、お届けしていますこのコーナー、今回は8月の上旬に中国の鞍山市を訪問しました尼崎市小学生代表団の皆さんをゲストにお迎えしてお送りします。

「尼崎市・鞍山市友好都市提携 30 周年記念『子供達の国際交流』」と題しまして、お話していきたいと思います。代表団の皆さん、よろしくお祈いします。

代表団：よろしくお祈いします。

稲 村：ではまず最初に、友好都市提携を結んでいるこの中国の鞍山市について少し紹介をさせてもらいたいと思います。

鞍山市は中国東北部にある遼東(りょうとう)半島の付け根にありまして、まあ大連の近くですね。私たちが大連空港から行きました。この鞍山という名前は市街地の南のところに2つの山が連なっていて、その山と山の間が馬に載せる鞍に似ているところから名付けられたそうです。人口は340万人。尼崎市の約7.6倍です。尼崎市とちょっと似てるところもあるんですけども、鉄鋼の街として、有名です。豊富な鉱物資源を背景に中国の発展を担ってきた街でもあります。私たちがこの大連からこの鞍山市に行くまでの間に、日本で言うところの新幹線といいますか、高速鉄道が出来ていまして、すごく快適だったんですけども、そのレールにはこの鞍山市の産地になっている鉄がたくさん使われているということでした。

稲 村：そしてこの尼崎市と鞍山市の歴史なんですけれども、昭和47年、ちょうど実は私が生まれた年なんですけれどもね、日本と中国の間で国交が正常化しまして、全国的にも日本と中国の都市で、友好都市提携の気運が非常に高まりました。そして、その約10年後の昭和58年、わが尼崎市と、この鞍山市も友好の街の提携をしていこうということで関係が始まりました。実はですね、姉妹都市ということ、お姉ちゃんと妹ということで、上下の関係があってイマイチだなということで、友好都市というふうになっているということです。今年、こうやって尼崎市と鞍山市は友好都市提携30周年を迎えることになりまして、これまでのこの友好関係を保ってきた先輩方にほんとは、感謝をしたいなというふうに思うんですけども、実はこれまで派遣団の行き来はしてたんですけども、子供たちの派遣っていうのはなかったんですよ。この30周年を機にぜひ子供たちの交流を実現したいということで、この度はじめて尼崎市から、小学生代表団といっしょに鞍山市を訪問するというふうになったわけなんです。まあ30周年にふさわしい事業になったんじゃないかなというふうに嬉しく思っているところです。

稲 村：それでは、今日はそういった代表団の皆さんに自己紹介をしてもらって、色々話を聞いていきたいと思います。それでは、自己紹介、榎本さんから順番にお願いします。

榎 本：立花西小学校5年生の榎本学人です。代表団に参加しようと思ったきっかけは中国の人と交流がしてみたかったからです。

近 藤：園和小学校5年、近藤深沙です。代表団に参加しようと思ったきっかけは、2年生の時の夏休みの宿題で描いた絵が選ばれて、鞍山市に行ったので、私も行ってみたいと思い、参加しました。

田 中：武庫の里小学校6年、田中晴樹。代表団に入ったきっかけは、これからは他の国との友好が大切だと思い参加しようと思ったからです。

西 原：梅香小学校5年、西原貴翔です。代表団に参加しようと思ったきっかけは、お父さんが世界に

は自分の知らないいろいろなことがあるから、行っているいろんなことを見てきなさいと言われたことと、自分も歴史に興味があったから、代表団に参加しました。

前 田：尼崎北小学校5年、前田渉です。同じ世界で生きていく、中国の小学生と交流したいと思ったので参加しました。

藪 田：園和北小学校、5年の藪田芽衣子です。代表団に参加しようと思った理由は、中国の子どもたちと、お話したり、触れ合うことで日本の文化の違いや中国の良いところなどを学びたかったからです。

和 田：園和小学校の5年、和田優希です。この代表団に参加した理由は、中国の小学生に会いたかったことと、日本と中国の生活などの仕方の違いを知りたかったことです。

稲 村：はい、もうみんな本当に元気いっぱい、中国でも大活躍してくれました。それでは、小学生代表団のみんなに鞍山市を訪問した時の話を聞いていきたいと思います。まずは、鞍山市を訪問して印象に残ったことを聞いてみたいと思います。じゃあ、藪田さん、教えてくださいませんか？

藪 田：家の屋根の色が、赤や青や黄色など、日本の家に比べてカラフルだったり、ホテルなどの自動ドアが回転ドアだったりしたのが印象的でした。

稲 村：じゃあ、中国と日本では、違うところもあると思うんですけども、こんなことが違うんだって驚いたこと、何かありましたか？えーっとこれは和田さんに聞いてみようかな？

和 田：中国で食事をした時に、日本とお箸が違ってたことです。日本のお箸は先がとんがって短いいけど、中国の箸は先がとんがってなくて長かったので、そのことを鞍山市の稲 村：さんに質問したら、大家族で遠くのものを取るのに便利だからと教えてもらいました。

稲 村：はい。いろいろ質問もね、みんな積極的にしてくれてました。お料理も、ほんとにみんな、いっぱい食べてたよね。まあ好き嫌いもあるかもしれませんが。私もね、おいしくってちょっと食べ過ぎちゃいました。

稲 村：今回ほんとにみんな、いろんな経験をしたわけなんですけれども、これからどんな風に活かしていきたいですか？えーっとじゃあ、樫本さん、教えてください。

樫 本：ぼくは、将来海外に出て活躍したいと思っているので、初めての外国の体験を生かしたいと思っています。

稲 村：頼もしいですねえ。是非、頑張って活かしていつてもらいたいと思います。じゃあ、西原さんはどうですか？

西 原：友達や先生、自分が大人になった時にも尼崎市に鞍山市という友好都市がある事、鞍山市で見て感じた事を友達に教えてあげたいです。

稲 村：それも是非是非、お願いしたいと思います。みんなほんとに、言葉は、ね？通じなくても、一緒に粘土細工を作ったり、お手玉遊びをしたり、で、またあの、書道をね、ちょっと教えてもらったり、ほんとにいろいろな体験や交流をさせてもらったんです。そういった中で、感じたこととか、ほんとにどんどん、いろんな人に伝えていつてもらいたいなーっていうふうに、思います。こんなふうに、今回、素晴らしい交流が実現した尼崎市と鞍山市なんですけれども、この二つの市が友好都市だっていうことを知らない尼崎市民の方も、まだまだ、たくさんいらっしやっと思うんですよね。今回この二つの市の関係について、なにか新しく学んだことありますか？近藤さん。あるかな。

近 藤：鞍山市と友好都市となったきっかけの音楽隊に所属している事が嬉しいです。

稲 村：そうそう、近藤さんは、音楽隊もやってるんだよね、少年音楽隊ね。実は、この尼崎市の少年音楽使節団が、鞍山市を訪問して、演奏会を開いたのが、直接的なきっかけになって、この友好都市の関係が続いてるんです。絵も選ばれたのがきっかけだって言ってたし、音楽もやってるし、そして実際行ってみて、またいろんな人に、感じたことを伝えてもらいたいと思います。じゃあ、ひきつづき聞いていきましょう。今回の鞍山市への訪問を通じて、感じたこと、じゃあ、田中さん、お願いします。

田 中：今後は、逆に鞍山市から尼崎市に来てほしいです。そして、日本のこと尼崎市のこと日本の文化のことを、知って欲しいです。特に日本のお琴と中国のお琴を聞き比べて欲しいです。その時は僕がひいてあげたいです。

稲 村：いいですねえ。お琴練習してるんだっけ？

田 中：はい。

稲 村：私も是非是非、今度は、中国の子供たちを尼崎市に招待したいなと思っています。実際にそういうふうに進めていきたいとは思っているのでみんなも楽しみにしてくださいね。じゃあ、最後の締めくくりは、前田さんお願いします。

前 田：小学生同士だと仲良く出来たので、もうちょっと交流すれば日本の印象が良くなるのではないかと思いました。

稲 村：そうですね、みんなもやっぱり実際に行ってみて、思っていたのと違うなというのもあったと思うし、思った以上に向こうの小学生と仲良くできたと思います。本当に私達自治体レベルでこーやった草の根の市民の交流、そして未来を担う世代の子供達の交流をこれからも是非進めて行きたいと思っています。今日は本当に色々な話を聞かせてもらいました。代表団のみんな本当にありがとうございます。

代表団：ありがとうございました。

稲 村：今回は、尼崎市小学生代表団のみんなをゲストにお迎えして、「尼崎市・鞍山市友好都市提携30周年記念『子供達の国際交流』」と題してお話をさせていただきました。それでは、次回の放送もどうぞお楽しみに・・・。